

# 神から聞くには？

2016年9月25日（日）午後2-4時

「生きるを考える」の集い 第四回

日曜日の午後、

一数学者の考え、個人的体験を通して、神との対話に生きる信仰生活についてお話を伺います

## 第一部

**語り手**（逐語通訳で聞いていただけます）

英国ダラム大学数学教授、ジョン・パーカー師

## 第二部

**実践**

聖霊の御導きにより、御霊の賜物を通して、神の御旨を知る

## 第三部

**話し合い**

ジョン師の問題提起を受け、小グループでの話し合い

各グループ内でフィードバックをし、不可解な点を再確認、質疑応答

---

## 「生きるを考える」の集い・シリーズの ご案内

フルダミニストリーでは、2016年5月から2017年3月にかけて、この世で与えられた生命、人生をいかに生きるかの貴重なお話を、各専門域の第一線で活躍しておられる英国人講師三人から伺う「生きるを考える」の集いを企画しました。

日本の大学、研究機関に客員教授として招聘されている講師ですので、海外出張も多く、全員の常時出席はかありませんが、日本滞在中、できるだけ多くの時間を、皆さまとのお交わりに費やしたいとのことですので、月一回、日曜日の午後2-4時、この集いを計画しております。

お友だちをお誘いの上、万障繰り合わせてお出かけください。

---

## 講師プロフィール

クリス・ドーン 英国ダラム大学宇宙物理学教授、ブラックホール研究者

ジョン・パーカー 英国ダラム大学数学教授

---

場所：東京都町田市原町田4丁目9-8（サウスフロントタワー町田内）

[町田市民フォーラム4階・第一学習室](#)

---

**次回の予定**（最新情報はサイトでご確認ください）

日時：10月23日（日）午後2-4時

場所：町田市民ホール第一会議室（東京都町田市森野2-2-36、町田駅から北西部へ徒歩7~10分）

講師：英国ダラム大学宇宙物理学教授、ブラックホール研究者、クリス・ドーン師

## 私たちは、どのようにして神から聞くことができるだろうか？

### コリント人への手紙第一 2：9-12

まさしく、聖書に書いてあるとおりです。「目が見たことのないもの、耳が聞いたことのないもの、そして、人の心に思い浮かんだことのないもの。神を愛する者のために、神の備えてくださったものは、みなそうである。」神はこれを、御霊によって私たちに啓示されたのです。御霊はすべてのことを探り、神の深みにまで及ばれるからです。いったい、人の心のことは、その人のうちにある霊のほかには、だれが知っているでしょう。同じように、神のみこころのことは、神の御霊のほかにはだれも知りません。ところで、私たちは、この世の霊を受けたのではなく、神の御霊を受けました。それは、恵みによって神から私たちに賜ったものを、私たちが知るためです。

今日私がお話ししたいと思っていることは、「神から聞く」ということです。

上述の聖句が語っていることはまさに、このことの一局面です。神は私たちに対する愛のゆえに、私たちと交信したいと願っておられるのです。神は、ご自分の子らである私たちにご自分の思いを顕したいと願っておられます。それゆえ、神は私たちが、ご自分の思いと道を理解することを願っておられます。

このことはあまり私たちが経験するところではないようです。私たちは神の思いについて定かでないことに気づき、神から聞きたいと切望するのです。もちろん、私たちには聖書があり、神の思い、言葉は聖書を通して私たちに顕されています。聖書には、「ことば」に用いられている二つの〔ギリシャ〕語、—「ロゴス」と「レーマ」—があります。

「ロゴス」は、聖書に言及し、永久に顕された神の不変の言葉です。

たとえば、

### ヘブル人 4：12

神のことば（ロゴス）は生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができます。

そして、イエス・キリストご自身が「ロゴス」です。

### ヨハネ 1：1

初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。

神の話し言葉の意の「レーマ」も、次の神の武具を述べている文脈の中で、「**剣**」として述べられています。

### エペソ人 6：17

救いのかぶとをかぶり、また御霊の与える剣である、神のことば（レーマ）を受け取りなさい。

イエスが、試みに遭われたとき、キリストは次のように言われました。

### マタイ 4：4

イエスは答えて言われた。『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことば（レーマ）による』と書いてある。」

私は今日、神の言葉、「レーマ」を聞くことについて、お話ししたいと思います。今この場で、神は何を語っておられるのでしょうか。もちろん、神はお一人ですから、ご自分の話し言葉「レーマ」が書き言葉「ロゴス」と一致しないことは決してないことを申しあげておきます。実際、神は私たちに「レーマ」を語られるとき、よく聖書を用いられます。あなたには、聖書の一節が、心に舞い込んできたという経験がおありでしょうか。

私は、「神から一度も聞いたことがないので、神が自分に何をすることを望んでおられるのか分からない」というキリスト者たちに会ってきました。実際、彼らは聞いているのですが、そのことに気づいていないのです。

### ヨハネ 10：27

**わたしの羊はわたしの声を聞き分けます。またわたしは彼らを知っています。そして彼らはわたしについて来ます。**

キリストは、私たちは主の声を聞き分けると言われました。キリストは羊飼いな神で、私たちはキリストの羊なのです。よく知られた次の聖書箇所から、どのようにして神の言われることを聞くことができるのかを、見てみましょう。サムエルの受けた訓練のひとつです。

### サムエル記第一 3：1-11

少年サムエルはエリの前で主に仕えていた。そのころ、主のことばはまれにしかなく、幻も示されなかった。その日、エリは自分の所で寝ていた。—彼の目はかすんできて、見えなくなっていた— 神のともしびは、まだ消えていず、サムエルは、神の箱の安置されている主の宮で寝ていた。そのとき、主はサムエルを呼ばれた。彼は、「はい。ここにおります」と言って、エリのところに走って行き、「はい。ここにおります。わたしをお呼びになったので」と言った。エリは、「私は呼ばない。帰って、お休み」と言った。それでサムエルは戻って、寝た。主はもう一度、サムエルを呼ばれた。サムエルは起きて、エリのところに行き、「はい。ここにおります。私をお呼びになったので」と言った。エリは、「私は呼ばない。わが子よ。帰って、おやすみ」と言った。サムエルはまだ、主を知らず、主のことばもまだ、彼に示されていなかった。主が三度目にサムエルを呼ばれたとき、サムエルは起きて、エリのところに行き、「はい。ここにおります。私をお呼びになったので」と言った。そこでエリは、主がこの少年を呼んでおられるということを知った。それで、エリはサムエルに言った。「行って、おやすみ。今度呼ばれたら、『主よ。お話してください。しもべは聞いております』と申し上げなさい。」サムエルは行って、自分の所で寝た。そのうちに主が来られ、そばに立って、これまでと同じように、「サムエル。サムエル」と呼ばれた。サムエルは、「お話してください。しもべは聞いております」と申し上げた。主はサムエルに仰せられた。「見よ。わたしは、イスラエルに一つの事をしようとしている。それを聞く者はみな、二つの耳が鳴るであろう…

とメッセージは続きます。

サムエルが神のご臨在の場にいることに留意してください。ヘブル語(旧約)聖書では、神の箱は、人が近づける神のご臨在の場に一番近いところに置かれていました。サムエルは、神の宮の神の箱のすぐそばで、眠っていたのです！しかし、サムエルは神のご臨在の場におり、祭司エリに多くのことを教えられていたにもかかわらず、主の言葉はまだサムエルには明らかになっていなかったと、聖句は語っています。しかし、ある夜、エリとサムエルが床に就いた後、このすべては変わります。

神がサムエルに語られたとき、サムエルはそれに気づきませんでした。実際、ここには笑いを誘うような光景、一神はサムエルに語り、サムエルはそれがエリだと思い、エリは、自分ではないと言う一が描かれています。ついにエリが、何が起きているかに気づき、そのことをサムエルに説明するまで、このことは繰り返されます。そこで、サムエルは神に、自分は聞いておりますと答え、神から非常に重要な言葉を受けたのでした。

神が私たちに語られるときは何度もあります。しかし、にもかかわらず、私たちはそのことに気づいていないのです。そこで今日、私がしたいと思っていることは、神がすでに語っておられる方法を指摘し、皆さんが、そのことに気づき、神から明確に聞く能力を発達させるお手伝いをする試みです。

それでは、神は、私たちにどのように語っておられるでしょうか。最初に引用した『コリント人への手紙第一』からの段落は、私たちに三つの方法「**目が見たことのないもの、耳が聞いたことのないもの、そして、人の心に思い浮かんだことのないもの**」を示しています。

1. 神は、画像、ビジョン、——私たちが見る事物——を通して語られる
2. 神は、言葉、——私たちが聞く事物——を通して語られる
3. 神は、心、——私たちが感じる事物——を通して語られる

これら三つのすべてには共通のテーマがあります。それは、創造力の役割です。

パウロが心に思い描いたことを、どのように語ったかに留意してください。人々は非常にまれにしか、もっともそれは起こり得ることですが、部屋の中に物理的な対象を見ることはないのです。また、非常にまれにしか、もっともそれは起こり得ることですが、人々が聞きとれる声を聞くということはないのです。さらに、非常にまれにしか、もっともそれは起こり得ることですが、人々が身体的な接触を感じることはないのです。むしろ神は、私たちが、見、聞き、感じると「想像する」ことを通して、一私たちの「心の目」、私たちの思考過程、私たちの感情を通して一語られるのです。このことを、もう少し説明してみましょう。

ここに、想像力の感覚が極めてよく発達した人々がいます。その集団は子どもたちです。子どもたちの遊び方を考えてみてください。私は子どものころ、車が好きで、車のふりをして遊ぶのが好きでした。中には、スーパー・ヒーローや王女や勇士になったつもりで遊ぶことの好きな子たちもいます。私たちのほとんどは、成長につれ大人になると、もっと合理的になり、それほど想像力を用いなくなります。しかし、キリストは私たちに、子どもたちのようにして御国に入るようにと、奨励しておられます。

#### マルコ 10：15

**まことに、あなたがたに告げます。子どものように、神の国を受け入れる者でなければ、決してそこに、入ることはできません。」**

私たちは、子どものころ用いた想像力に通じ、取り戻す必要があります。今ここにいない友人、あるいは、親類の方のために祈っていることを想定してください。よりよく祈るために、あなたは心の中に、彼らの姿を思い描くかもしれません。彼らが言っているかもしれないとあなたが思う、彼らのその姿を思い描くとき、あなたは、想像上の対話すらもしているかもしれないのです。あなたは彼らの気持ちを感じるかもしれません。もし彼らが困難な状態に置かれているなら、あなたは彼らの苦痛を感じるかもしれません。もし何か良いことが起きているなら、あなたは彼らの喜びを感じるかもしれません。これらの光景、音、感覚のすべての中で、あなたは彼らのために祈っているのです。すなわち、彼らの

状態、必要、喜びを神とともに分かち、神に彼らを助け、備え、あるいは、慰めてくださいと願っているのです。このように、私たちの祈りの中で、私たちはすでに私たちの想像力を用いています。

今、あなたが祈っているとき、ある思いが心の中にひよいと飛び込んだものと想定してください。おそらく、それは、あなたが祈っている人についてかもしれませんし、それ以外の何かについてかもしれません。このことを別の言い方で表すとしたら、それは、「その一瞬、あなたはある思いを考えてもいなかった、ところが次の瞬間、その思いがあなたの心の中に完全に形作られていた」と表現できるかもしれません。あるいは、おそらく、言葉、文句、文章があなたの意識に流れ込むかもしれないのです。私はこれが確かに、神が私たちに語られるとき、よく用いられる方法だと信じています。

私自身の経験からお話ししましょう。何年前か、私は公文書で届くことになっていた重要な通知を待っていました。その手紙が届くのを待っていましたが、何も届きませんでした。そこで私は家を後にしました。ところが私が通りを下っていくとき、足が地に着くたびに、私の頭に声のようなものが響いたのです。「家に戻って電話せよ」と（このときは、携帯電話普及前の時代でした）。そこで私はその通りにし、この電話が、私の人生の方向を変える機会を開くことになったのでした。

ここに、このことがどんな風に起こるのかの別の例があります。私は、クリスチャンが次のように言うのをよく聞いてきました。祈りのため、あるいは、聖書を読むため腰を下ろすと、突然、全く別のことが頭に飛び込んできて……と。このことを、もしかしたら、神があなたに語っておられるのかもしれないと、考えたことはおありでしょうか。私たちは、日々の聖句を携え、あるいは、祈りの要求のリストを携えて、主の御前に来ます。しかし神は、おそらく、他のことについて話したいと思っておられるかもしれないのです。私たちが義務的に、聖句や私たちのリストを読み進む代わりに、私たちの頭は突然、商店で買う必要のあるもののことに移ってしまうかもしれないのです。そのようなとき、自分を腹立たしく思う代わりに、——少なくとも私はそう思うのですが——、おそらく、私たちは神に、神が私たちが買うことを、あるいは、買わないことを望んでおられるものが何かあるのかどうかを尋ねる必要があります。おそらく神は、ご自分が私たちの供給者で、そのためにどのように支払えばよいかを私たちが心配しなくてもよいことを知らせたいと、思っておられるのかもしれないのです。あるいは、神は私たちが余分に買って、他の人々にあげることを望んでおられるのかもしれない。

私たちは、神が私たちに語っておられる「とき」に気づき、信仰で答える必要があります。ちょうど、サムエルのように、「聞いております。もっとお話してください」と答えるのです。私たちがこうすると、神は私たちに語られます。しかし、神の主要な御目的は、情報を伝えることではなく、御自分の思いを明らかにされることであることを思い起こしてください。このことには、主との対話と関係が伴われます。私の言わんとしていることを示すために、旧約時代のもう一人の偉大なる預言者エレミヤの訓練のひとこまを見てみましょう。

#### エレミヤ書 1：11-14

次のような主のことばが私にあった。「エレミヤ。あなたは何を見ているのか。」そこで私は言った。「アーモンドの枝を見えています。」すると主は私に仰せられた。「よく見たものだ。わたしのことばを実現しようと、わたしは見張っているからだ。」再び、私に次のような主のことばがあった。「何を見ているのか。」そこで私は言った。「煮え立っているかまを見えています。それは北のほうからこちらに傾いています。」すると主は私に仰せられた。「わざわざ、北からこの地の全住民の上に、降りかかる。

この段落の最初の部分は、私たちには何のことか分からないように思えます。それは、原語のヘブル語ではここに言葉の遊びが用いられているからです。言葉の遊びとは、ヘブル語の「アーモンドの木」と「見る」という言葉の音が非常によく似ていることがまず一点と、神が語られるとき、私たちは神の言われることを解釈しなければならないということの二点です。「アーモンドの枝」と「煮え立っているかま」には、多くの意味が考えられますが、神は、私たちに語られるとき、何かを示すために、いつもその意味を説明されます。神は私たちに頻繁に、意味の定かでない画像を示されます。私たちがそれについて考え、祈ると、神は私たちにもっと示してくださいます。これはちょうどキリストが、群衆にたとえて語られ、次に、その意味を示されたのと同じです。

ここでエレミヤは、「アーモンドの枝」と「煮え立っているかま」を見ています。このどちらにも、あまり明確な解釈はありません。そこで神はエレミヤに、伝えたいと思われたことをさらに説明されます。これには幾つかの結果が伴われます。まず、エレミヤは、自分が、神が自分に示しておられるものを正確に見ていることを知ります、——神は「よく見たものだ」と言われたのでした——次に、エレミヤは、神の思いをもう少し理解することができるようになり、このようにして、神とより近くなったのでした。

最後に、警告しておきたいのですが、先に触れましたように、神の言葉「レーマ」は、聖書（「ロゴス」）と決して矛盾することはない、また、決して聖書につけ加えたり、あるいは、それと同等に扱われたりされるものではないということです。

コリント人第一 14 : 3 で、パウロは、「預言」について語っています。預言は神が語られる一つの方法で、「徳を高め、勧めをなし、慰めを与えるため」であると、パウロは語っています。ですから、もしあなたが神から聞いたと思うなら、それが神からのものだとは絶対的な確信で言うことは私たちにはできないので、ある簡単な基準をチェックすることは役に立ちます。

1. まず、もし神があなたに、ものを盗むことを語られたと思うなら、それは「十戒」に真っ向から反することなので、その出どころは神ではあり得ない
2. 次に、神の言っておられることが他人に関するものであるなら、その言葉が他人の徳を高め、励まし、助言になるかどうかを吟味する。もし、そうでなければ、それは神からのものではあり得ない

たとえ神が、私たちの想像力に、往々にして完全に形作られた思いで語られるとしても、私たちの想像力の中のすべてが神からのものというわけではないのです。私たちは、神の声を認識することを学ぶ必要がありますが、それには経験だけがものをいうのです。当分の間、以上挙げた二つの基準が私たちにとっての安全弁となるでしょう。